

日本語講師紹介：佐藤 由佳先生 / 保育士・幼稚園教諭資格・学研指導者資格

コメント：現在小学生二児の母。自宅で学研教室を開室し、2013年度よりTWINKE学研教室を開室致しました。

ゆとり教育がなくなり小学校で求められている国語力が変わってきています。ただ読めるだけ、書けるだけではない幼児期に必要な日本語を伝えていきたいと思います。幼稚園教諭・保育士として働いてきた経験を生かし引き続きこども達が興味をもって楽しく学べるように努めてまいります。どうぞ宜しくお願い致します。

日本語クラスの時間の中には日本語での「ちえ」学習の時間を設けています。それでは「ちえ」学習とは何か？ 下記にご説明申し上げます。

「ちえ」学習の内容

「ちえ」とは自分の頭で「考える力」を育てていきます。自分の頭で考えて、課題を解いていく力を育てます。国語、算数を含めてあらゆる教科で「考える力」が必要です。幼児期に考える力にチャレンジしてトレーニングをすることは国語、算数、他教科を学ぶ上で確かな土台となります。教材を楽しんでいるうちに「考えるトレーニング」ができるようになります。学習内容は ①絵の違いを見分ける弁別 ②もの見分け(分類)をする理解 ③図形の形を写す記憶、構成 ④迷路をたどる推理などがあります。幼児「ちえ」の部分は下記の5領域を扱っていきます。

- 1、**弁別**：同じ物ものや違うものを見分ける力。(正しく見分ける力を育てます)
→目の前にあるものに興味を持って気持ちを集中して見る体験を繰り返し、色、形、姿、模様、動き、向きなどを見分け同じ物はどれか違うものはどれかを見分けていきます。これらの事を通して注意力や集中力を養います。
- 2、**理解**：ものごとを知って理解する力。(より深く考えよく知る力を育てます)
→仲間分け(分類)をすることでものごとをより深く考え理解出来るようになります。仲間分けなど共通点を見つけていく分類は算数では図形の課題で「三角形の理解」など、また国語では漢字の仲間分けで「水、池、海」や「春、夏、秋、冬」など学習する中で今後大事な考え方の1つになります。
- 3、**記憶**：ものごとを覚える力。(しっかりと覚える力を育てます)
- 4、**構成**：ものごとの位置関係を捉えたりする力。(お手本通りに同じ形を作る力を育てます)
→お手本を見て、全体図形の位置関係を考えながら同じ形が出来るように記憶し写しとっていきます。例：点つなぎ・形の合成・形の分割

点つなぎは「空間知覚」といってよく見比べて図形の方向や位置形状などを理解していくもので「ちえ」の中でも大事な内容の1つです。見本を見て同じ形を写し取る力は、文字の書き取りや、定規を使って正確な図形を書く事にもつながります。また、線をつなぐ構成力や、見本を写し取るときに違いを見分ける**弁別力**などが必要になってきます。

形の合成は△や○や□の図形をよく見て、どんな形からなっているのかを理解して形を合成していきます。その際に知らないものを見分ける**弁別**の作業をしていきます。このように**構成**と言っても**理解**したり**弁別**したりなど「考える力」を通して「ちえ」の領域をいろいろと使っていく内容になっています。

形の分割は1つの図形の中に三角形がどのように組み合わさって出来ているかを考え、三角形ごとに分割していきます。三角形にも形が違うものがあることに気付かせていきます。実際に三角形を切って組み合わせる（形の合成）から入ります。三角形の形を使っていろいろな図形を作る体験を通して、三角の形を楽しんで身に付けることができます。三角形をいろいろと動かして三角形の不思議にふれることで幼児の段階で図形に興味を持たせます。図形の発展的な扱いで四角形の土台ともなります。

5、**推理**：ものごとの前後を推理して、考える力。（よく考える力を育てます）

→考える力を楽しく積み重ねていきます。先々のことを考えてよく推理するためには「ちえ」の中の違いを見分ける**弁別**する力や形と形を組み合わせる**構成**する力や、物事を知る**理解**する力などが基盤となります。「ちえ」の領域には「よく見て」「よく作り」「よく知る」ことがあるから「よく推理して考える」ことが出来るようになるのです。先々のことを考え推理する力が必要となります。これらのことは「国語・算数」のいろいろな課題への土台となるものです。

例：並び方の決まり・展開・迷路・視点変更

並び方の決まりはものが順序良くどのように繰り返し並んでいるかを推理して見つけ出します。

展開は2つに折ってあるものを切りとって開くとどんな形になるのかをイメージします。2つに折った紙を切りとって開いたときにどんな切り方をしても左右が同じ（対称）であることに注目します。

迷路は入口から線を引いていき、分かれ道のところで先に目で追いながらどちらに進むのかを考えて、出口まで進んでいきます。先を見とおす力を育てます。

視点変更は見る視点を自分からではなく、別の方から見てどのように見えるか推理します。「前・後・横」などの言葉の意味が良くわかります。1つの物をさまざまな角度から見る視点はものを考える際の大事な見方になります。国語など長文

を読んだときに問題をいろいろな角度から考えて解決することにも通じます。また算数では立体図形を構成している各面の特徴をとらえる見方にもつながります。頭の中にイメージを作る体験はこれからの学習の大事な基礎となります。